

平成 31 年度 北海道教育大学岩見沢校
芸術・スポーツ文化学科 スポーツ文化専攻
アウトドア・ライフコース

一般入試（前期日程）
小論文問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
2. この問題冊子はページ番号 1 から 3 までの 3 ページです。
3. 解答用紙は 2 枚です。解答は解答用紙に横書きとし、句読点も 1 字分として、指定された字数にまとめること。ただし、題・氏名は記入しないこと。
4. 受験番号は解答用紙の指定欄に記入すること。
5. 下書き用紙は 2 枚です。
6. 解答用紙のみを提出し、問題冊子・下書き用紙は、試験終了後持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。
7. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 下記の文章を読み、表を見て、設問 1 と設問 2 に答えなさい。

「3つのR」

ゴミを減らすためには実にさまざまな方法がある。だが、あまりたくさん方法があるので、どれをやった方がいいのか、どれが一番効果的なのか悩む人もいるだろう。そんなとき役に立つのが「3つのR」である。ゴミを減らす方法を大きく3つに分けて効果の大きい順に並べたものだ。1番効果が大きいのは Reduce (リデュース、減らす、減量。行政の用語では発生抑制ともいう)。つまりゴミになるものを作らない、買わない、使わないという意味である。マイバッグを持ち歩くのはレジ袋を使わないことになるから、リデュースになる。ほかにも輸入割り箸を使わずに「マイ箸」を持ち歩くこともリデュースになる。

2番目のRは Reuse (リユース、再利用) である。リユースというのは、一度使ったものを捨てずに繰り返し使うことだ。たとえばシャンプーや洗剤などで「詰め替え用」が売られている場合には、新品を買わずに詰め替え用を買うことで容器をリユースすることができる。ビールを買うとき、缶ビールではなくビンを買って、飲み終わったらビンを店に返すと容器代が戻ってくるが、これもビンのリユースしていることになる。あるいはいらなくなった物をフリーマーケットやリサイクルショップで売ったり買ったりするのもリユースである。

3番目が Recycle (リサイクル、行政用語では再生利用) である。リサイクルはリユースと違って、使わなくなった製品を原料に戻してもう一度製品をつくることをいう。たとえば、ビンのリユースというのはビールビンで説明したように同じビンを何度も使うことだが、ビンのリサイクルとなると、使わなくなったビンを集めて色別に分けてから細かく砕く。それを溶かしてもう一度ビンをつくる。聞いてすぐわかるように、リサイクルの方が手間やエネルギーがよけいにかかる。

出典:谷口 吉光「3つのR」鳥越 皓之・帯谷 博明編著『よくわかる環境社会学』

表 ペットボトル回収量と販売量および回収率の推移

年	回収量 (トン)	販売量 (トン)	回収率 (%)
2005	326,714	529,847	61.7
2006	360,528	543,840	66.3
2007	396,529	572,228	69.3
2008	445,457	573,105	77.7
2009	437,357	564,743	77.4
2010	430,372	596,060	72.2
2011	480,899	603,951	79.6
2012	527,236	582,896	90.5
2013	528,539	578,706	91.3
2014	532,010	569,257	93.5
2015	520,130	562,981	92.4
2016	529,380	596,056	88.8

(PET ボトルリサイクル推進協議会のデータ <http://www.petbottle-rec.gr.jp/data/transition.html> から作成)

設問 1

「3つのR」の文章をもとに、ペットボトルのゴミを減らすために、どのような取り組みが考えられるか、リデュース、リユース、リサイクルに分けて、全体で650～700字になるように述べなさい。(100点)

設問 2

表のペットボトルの販売量と回収率の数値を見て、ペットボトルのリサイクルとリデュースがどのように進んできたか、そして、私たちがこれから考えていかなければならないことは何かについて450～500字で述べなさい。(100点)